

魚津っ子の学びの向上のために

教師用

魚津市では、児童・生徒一人一人の学びの向上と確かな学力の定着を目指して、全小中学校（14校）が取り組んでいます。

本リーフレットは、学力向上において大切にしたい五つの取組について、誰もがすぐに活用できるよう、図式化して示したものです。

ここに記載されている事項は、市内の全小中学校が学力向上拠点校として取り組んだ内容をもとに作成してあります。ぜひ、身近に置き、日々の指導の参考として活用されることを願っています。

取組

授業改善

—ねらいを明確にした授業の構想—

- 学習規律の徹底
- 人間関係づくり
(学級づくり)
- 研修体制の充実
- 家庭との連携

発行：魚津市教育委員会 平成26年2月
魚津っ子の学び向上委員会
魚津市小中学校教頭会

授業改善

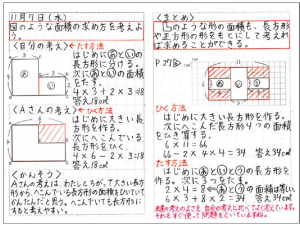
—ねらいを明確にした授業の構想—

- 実態把握
- 育てたい力
- 評価規準の作成

導入

ねらいを明確にした課題提示

- ◆具体的な取組
 - ・1時間の活動の流れの明示
 - ・学びがいのある課題の設定
 - ・ねらいに対応した具体的な問いかけ
 - ・課題ボードによる課題の明示



〈ノート〉

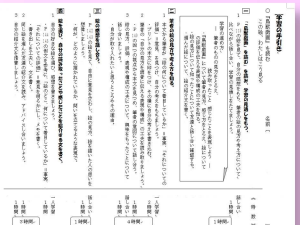
体験的な活動の充実

- ◆具体的な取組
 - ・教材開発
 - ・問題解決的な学習
 - ・地域素材の活用
(自然・歴史・産業・人物等)



個の学びの保障

- ◆具体的な取組
 - ・一人学習の時間の確保
 - ・書いて考える活動
 - ・学習の手引きの活用
 - ・個に応じた指導（朱書き、助言）



〈学習の手引き〉

学び合いの充実

- ◆具体的な取組
 - ・学習形態の工夫（ペア・グループ・全体）
 - ・座席の工夫（正面、コの字、グループ）
 - ・ホワイトボードの活用
 - ・整理して書く活動
 - ・板書の構造化



〈ホワイトボードを活用しての話し合い〉

学習の成果の確認

- ◆具体的な取組
 - ・キーワードによるまとめ、条件の明示
 - ・振り返りカードや「〇〇日記」等個人のまとめ
 - ・自己評価・相互評価
 - ・類似問題による確認

- ◆ノートの在り方・・・ノートの書き方を統一
 - ・ノートが書けない子どもへの指導 書く時間の確保
 - ◆成果 1時間の授業の流れ、板書の変化
 - ・ノートの書き方の指導 書き方を例示、文字を丁寧に

- ・日付、課題・まとめは赤で囲んで
- ・線は、ものさしを使って
- ・見出しは、かっこを付けて
- ・式や計算は、1行空けて
- ・図や表、矢印、吹き出しを使って



・ノート展示会

- ◆学習の手引き（単元全体を通して）
 - ・見通しをもって一人学習ができる具体的な学習の進め方、手がかりを提示

- ① 「〇〇」を読んで学習の見通しをもつ
- ② 課題について自分の考えをもち話し合う
- ③ 「〇〇日記」をまとめて交流する

◆成果 学習方法が身に付き、意欲的な取組に

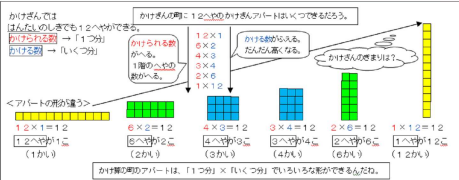
- ◆伝え合う力の育成
 - ・「伝え合う力育成のために身に付けたい力」の系統表
 - 「話す・聞く・書く」の目当て 発達段階ごとに作成掲示
 - ◆成果 目指す具体の姿が分かりやすい

- ・ハンドサイン
 - ◆成果 質問や感想、意見が出やすい
- ・音声言語の活動の充実、音読の楽しさ
- ・ペア・グループ学習
 - ◆成果 不安なく発表、教え合いで理解、説明方法の確認

- ・一人1枚 マイボード
 - ◆成果 生まれる対話、つぶやき
主体的な学び合いの姿
深まる関わり合い

- ◆板書の構造化
 - ・学習課題—学習内容—まとめ → 明確に整理
 - 学習課題—課題の共有
 - 学習内容—情報・写真・資料の活用、
発言の整理・比較・類型化、思考を深める
 - まとめ —学習の定着、学びの確認、次時の確認
- ・ノート指導との関連

〈学びの過程が
分かる板書〉



◆成果 思考の流れを視覚化し、理解しやすくなる

学習規律の徹底

- ◆授業開始終了時刻を守る
- ◆学習用具の持ち帰り
- ◆家庭学習の習慣化
(学校で)
- ◆筆記用具の点検
- ◆教科書や宿題等の確認
- ◆家庭学習カードの確認
(家庭で)

取組

- ◆掲示物「守ってますか?『授業の約束』」を全教室に掲示
- ◆委員会活動による授業開始時に着席していることを目標にした「ベル着」の呼びかけ
- ◆委員会活動による学習用具持ち帰りの呼びかけ
- ◆家庭学習カードの継続実施
- ◆筆記用具の点検
 - ・全ての筆記用具への記名の徹底
 - ・消しゴム（におい付き等ではなく、よく消えるもの）
 - ・筆箱の中（赤色鉛筆または、赤色ボールペン、定規の確認）
- ◆前日に、ランドセルの準備（教科書や宿題等の必要なものの確認）
- ◆家庭学習カードでの家庭学習の様子の確認（保護者による）

成果

- ◆掲示物「守ってますか?『授業の約束』」を全教室に掲示し、教師と児童・生徒が共通理解を図って実践することから、授業場面だけでなく、学校生活全体を通して規律ある行動が見られるようになった。
- ◆委員会活動等の取組により、自覚をもって家庭学習に取り組む児童・生徒が多くなった。
- ◆学習用具や宿題を忘れる児童・生徒が少なくなった。
- ◆児童・生徒が、主体的に授業に取り組むようになった。
- ◆学習についての親子の会話時間が増えた。
- ◆学校行事等への興味・関心が高くなった。

人間関係づくり (学級づくり)

- ◆Q-Uを活用した学級づくり
- ◆朝の会と帰りの会の工夫
- ◆学習形態の工夫

- ◆Q-Uを年3回実施し、分析・考察を行うことによる児童・生徒の学校生活満足度の把握
- ◆構成的グループエンカウンターを取り入れた活動
(質問ジャンケン、目と目のあいさつゲーム 等)
- ◆朝の会・帰りの会の工夫による児童・生徒の様子や変化の把握
- ◆ペア、少人数、フリーグループ等、児童・生徒の実態に応じた活用

- ◆定期的の実施することによって、一人一人の児童・生徒や集団の様子が分かり、よりよい学級づくりの参考となった。
- ◆シェアリングで、自分の思っていることを話すことで認められるうれしさを味わわせることができた。
- ◆ペアやグループ学習を多く設定したことにより、これまで発言の少なかった児童・生徒の発言の場が増え、学習意欲の高まりにつながった。

研修体制の充実

- ◆事後研修の工夫
- ◆リフレクションカードの活用
- ◆模擬授業・リレー授業
- ◆教材研究ノート等の
作成と活用
- ◆授業振り返り表の活用

- ◆フリーカードによる事後研修（全員参加の研修、協議内容の充実）
- ◆校内研修の活性化（視点を絞った事後研修）
- ◆リフレクションカードの活用
(今後の授業に生かしたいこと、実践課題の振り返りの記入)
- ◆模擬授業の実践（発問、板書、キーワード等の事前研修）
- ◆リレー授業の実践（場面ごとにリレー形式での授業を展開、協働での授業）
- ◆教材研究ノート等（教材分析、単元構想、想定される一人学習の記入、共通実践内容の記入、実践記録の累積、形成的評価への活用）
- ◆授業振り返りチェック表（教師の自己評価カード、相互評価カード）
- ◆授業改善のPDCAサイクルに学力調査を位置付ける

- ◆活発な意見交流で授業の特徴や問題点が焦点化され、短時間で内容のある話し合いができた。
- ◆年間の研修内容が継続され、協議が充実した。
- ◆教師一人一人が、目的意識、課題意識をもって実践に取り組むようになり、授業改善につながった。
- ◆事前研修が深まり、より一人一人に応じた授業展開ができた。
- ◆教師全員で教材研究を積み重ねることができ、教材理解、教材分析が深まり、児童・生徒の学習意欲を引き出すことができた。
- ◆教師自身の振り返りが、授業改善を促した。
- ◆日常の活動や指導の参考になり、実態に応じた見直しができた。

家庭との連携

- ◆家庭学習の習慣化
各種カード・ノートの利用
- ◆基本的生活習慣の確立
- ◆保護者へのお知らせと
協力依頼
- ◆家庭学習の手引きの活用
(平成26年1月発行)

- ◆家庭学習強調週間の設定（家庭と連携しながら）
- ◆学習状況を伝える振り返りノートの利用
(1週間分の学習で、つまずいた部分をノートにまとめる)
- ◆各家庭ごとに重点項目を設定することによる基本的生活習慣定着の意識化
(あいさつ、早寝・早起き等)
- ◆規則正しい生活を送る呼びかけ（メディアに接する時間を減らす等）
- ◆学習成果の保護者への伝達（「学習お知らせカード」の利用）
- ◆ホームページや各種たより等による家庭学習に関する協力依頼

- ◆家庭学習の大切さについて、保護者への意識付けができた。
- ◆保護者が子どもの学習状況を把握し、それをもとに家庭学習をサポートする雰囲気が出来てきた。
- ◆「あいさつ」や「早寝・早起き」への意識が高まり、基本的生活習慣が身に付くとともに、家庭学習も徐々に習慣化された。
- ◆保護者が子どもの学習の成果を確認することで、学校での様子や学習内容について関心をもつようになった。